

令和4年度 地方公務員の過労死等に係る公務災害認定事案に関する調査研究（概要）

1. 内容

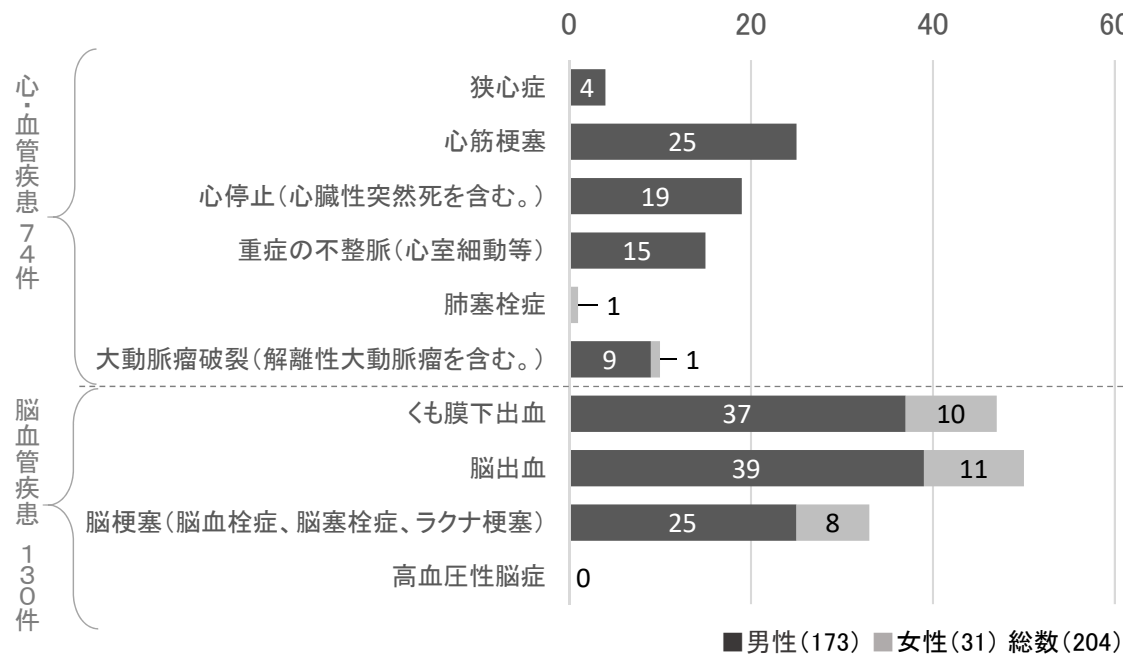
地方公務員災害補償基金が、平成22年1月から令和3年3月までの期間に公務上の災害と認定した事案（550件※）について、認定理由書や裁決書等を基に事案の収集・データベース構築・集計（クロス集計）・分析を実施し、地方公務員の過労死等の実態を把握。※ 脳・心臓疾患204件、精神疾患346件
なお、平成27年度から平成29年度までの期間に公務上の災害と認められなかった事案の収集・データベース構築を実施。

2. 成果

- ① 被災者の個人属性、被災傷病名、職員区分、職務における負荷要因などの“データベースを構築”
- ② 認定事案を「脳・心臓疾患」「精神疾患・自殺」に区分し、“基本集計、クロス集計を中心とした分析を実施”
- ③ 認定時の疾患名（決定時疾患名）をカテゴリ別に分類したことにより、“基礎情報を整理”

3. 主な分析結果

脳・心臓疾患 図1-1 決定時疾患名の分布



脳・心臓疾患204件中、心・血管疾患は74件（36.3%）、脳血管疾患は130件（63.7%）。男女別で見ると、男性が約8割（173件、84.8%）、女性が約2割（31件、15.2%）であった。また、女性の認定件数については、「心・血管疾患」は2件のみであり、残りの29件はすべて「脳血管疾患」であった。

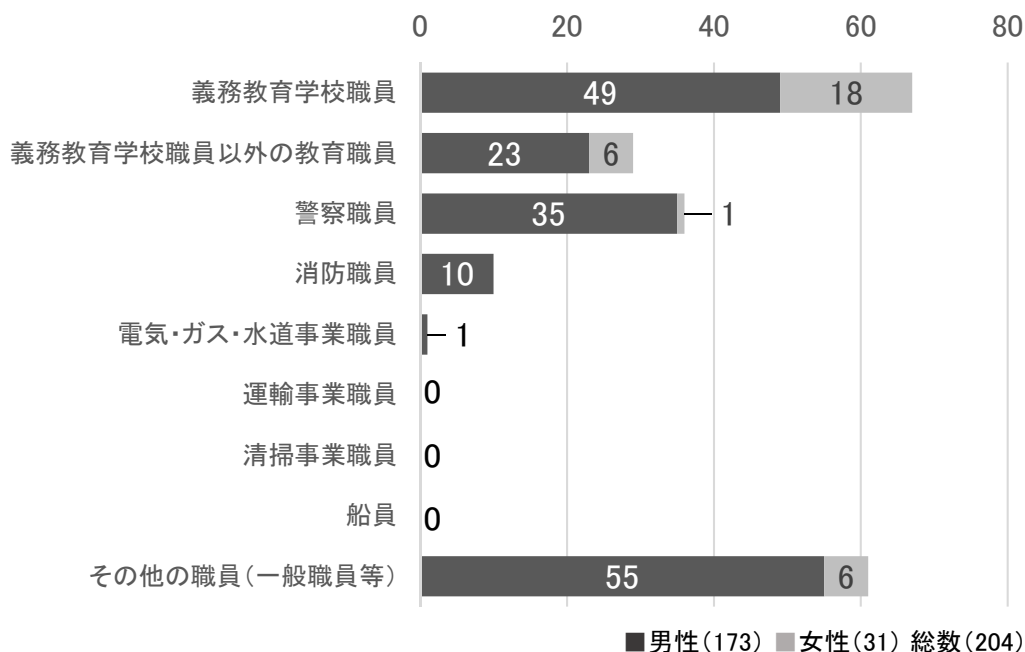
心・血管疾患（74件）の内訳※は、

- ・ 心筋梗塞 25件（12.3%）
 - ・ 心停止 19件（9.3%）
 - ・ 重症の不整脈 15件（7.4%）
 - ・ 大動脈瘤破裂 10件（4.9%）
 - ・ 狭心症 4件（2.0%）
 - ・ 肺塞栓症 1件（0.5%）
- ※内訳における（）内はすべて総数204件に対する割合

脳血管疾患（130件）の内訳※は、

- ・ 脳出血 50件（24.5%）
 - ・ くも膜下出血 47件（23.0%）
 - ・ 脳梗塞 33件（16.2%）
- であり、高血圧性脳症はなかった。

図1-2 職員区分別の事案数



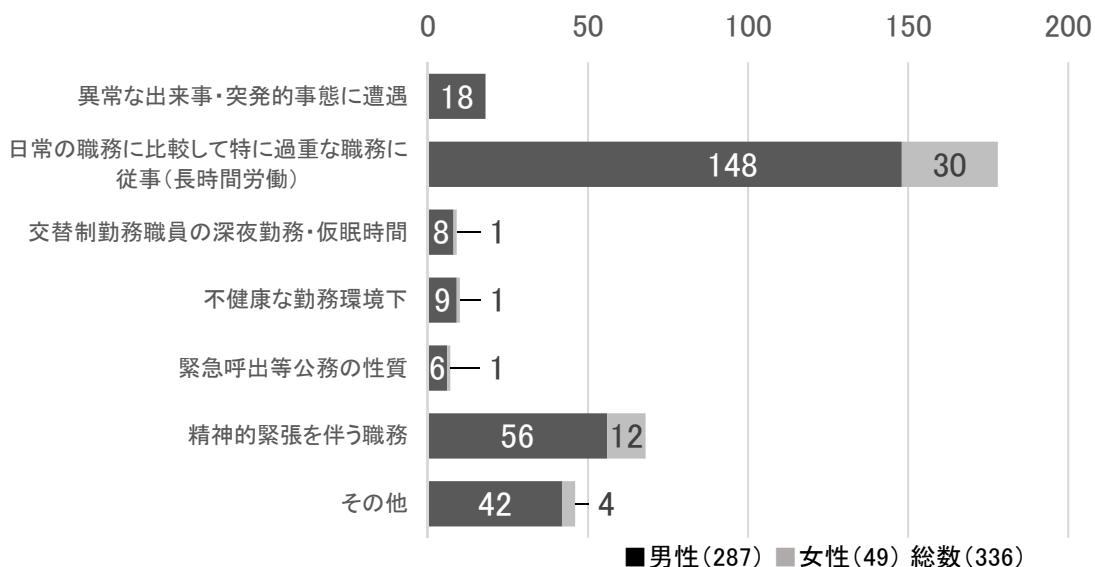
職員区分別の事案数（204件）の内訳は、

- ・ 義務教育学校職員 67件（32.8%）
- ・ その他の職員（一般職員等） 61件（29.9%）
- ・ 警察職員 36件（17.6%）
- ・ 義務教育学校職員以外の教育職員 29件（14.2%）
- ・ 消防職員 10件（4.9%）
- ・ 電気・ガス・水道事業職員 1件（0.5%）

であり、運輸事業職員、清掃事業職員、船員の事案はなかった。

男女別でみると、全ての職員区分で男性が大半を占めているが、女性は31件のうち、義務教育学校職員が18件であり、女性の事案数の半分以上を占めている。

図1-3 職務従事状況別の事案数



職務従事状況別の事案数336件の主な内訳（その他を除く）は、

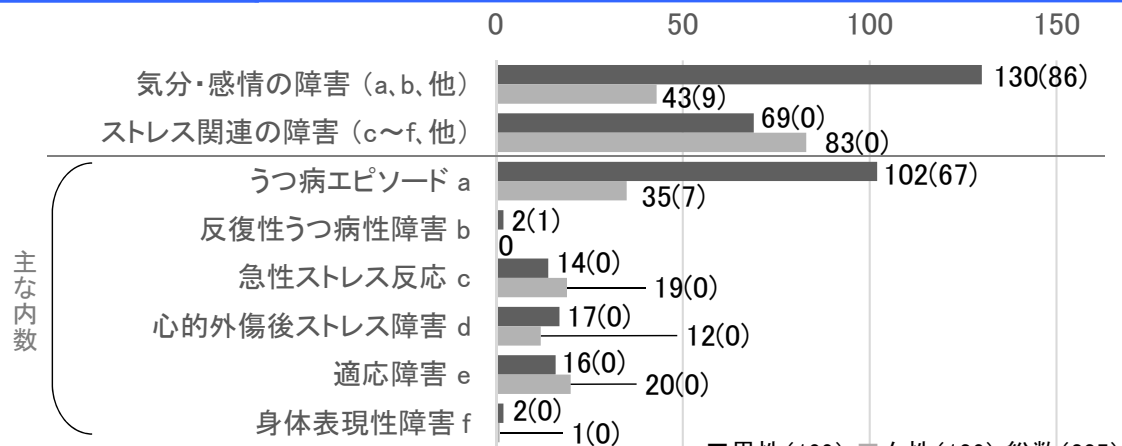
- ・ 『日常の職務に比較して特に過重な職務に従事（長時間労働）』 178件（53.0%）
- ・ 『精神的緊張を伴う職務』 68件（20.2%）
- ・ 『異常な出来事・突発的事態に遭遇』 18件（5.4%）

であった。

『日常の職務に比較して特に過重な職務に従事（長時間労働）』の件数は男女ともに最も多く、男性は287件のうち148件（51.6%）、女性は49件のうち30件（61.2%）となっている。

(注) 脳・心臓疾患は204件(男性173件、女性31件)であるが、1つの事案に対し、複数の職務従事状況に該当する場合はそれぞれを1件としてカウントしているため、総数(336件)とは一致しない。

図2-1 決定時疾患名の分布



(注) 1. 精神疾患346件(男217件、女129件)の内訳を示したものの。
 2. ()内は、うち自殺事案の数。
 3. a~fは、国際疾病分類(ICD-10)コードに基づき、障害別に区分できた事案を集計。
 4. a, bに区分できなかった事案34件、c~fに区分できなかった事案51件(計85件)については、それぞれ「気分・感情の障害」、「ストレス関連の障害」に含めている。
 5. いずれにも分類できなかった事案21件については、上記グラフに含めていない。

精神疾患346件中、気分・感情の障害は173件（50.0%）、ストレス関連の障害は152件（43.9%）、分類できなかった事案は21件（6.1%）。男女別でみると、男性は気分・感情の障害が多く130件、女性はストレス関連の障害が多く83件となっている。

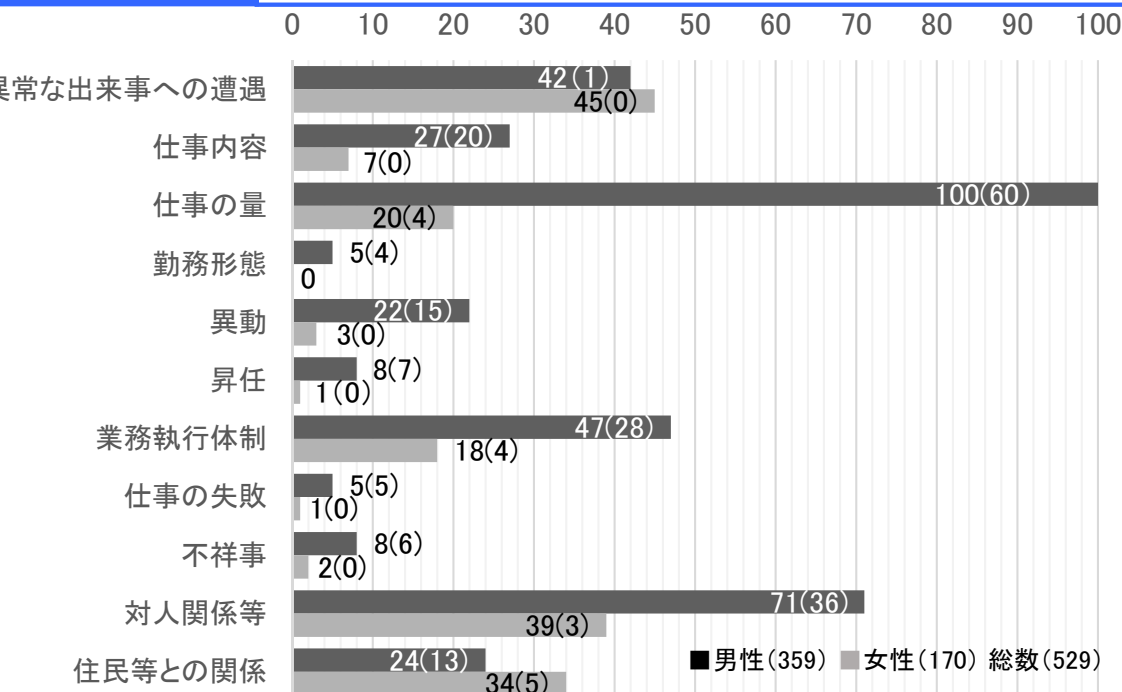
細分化した疾患名のうち主なものは、うつ病エピソード（注）137件、適応障害36件、急性ストレス反応33件、心的外傷後ストレス障害29件となっている。

(注) うつ病エピソードとは、抑うつ（気分の落ち込み）の症状を示す疾患。

(自殺事案)

自殺事案は107件で、分類できなかった12件を除く95件すべてが気分・感情の障害であり、このうち74件がうつ病エピソードであった。

図2-2 業務負荷（出来事）別の事案数



(注) 1. 精神疾患は346件(男217件、女129件)であるが、1つの事案に対し、複数の業務負荷(出来事)に該当する場合はそれぞれを1件としてカウントしているため、総数(529件)とは一致しない。
 2. ()内は、うち自殺事案の数。

業務負荷が認められる出来事の該当状況529件の主な内訳は、

- ・『仕事の量』 120件（22.7%）
- ・『対人関係等』 110件（20.8%）
- ・『異常な出来事への遭遇』 87件（16.4%）
- ・『業務執行体制』 65件（12.3%）であった。

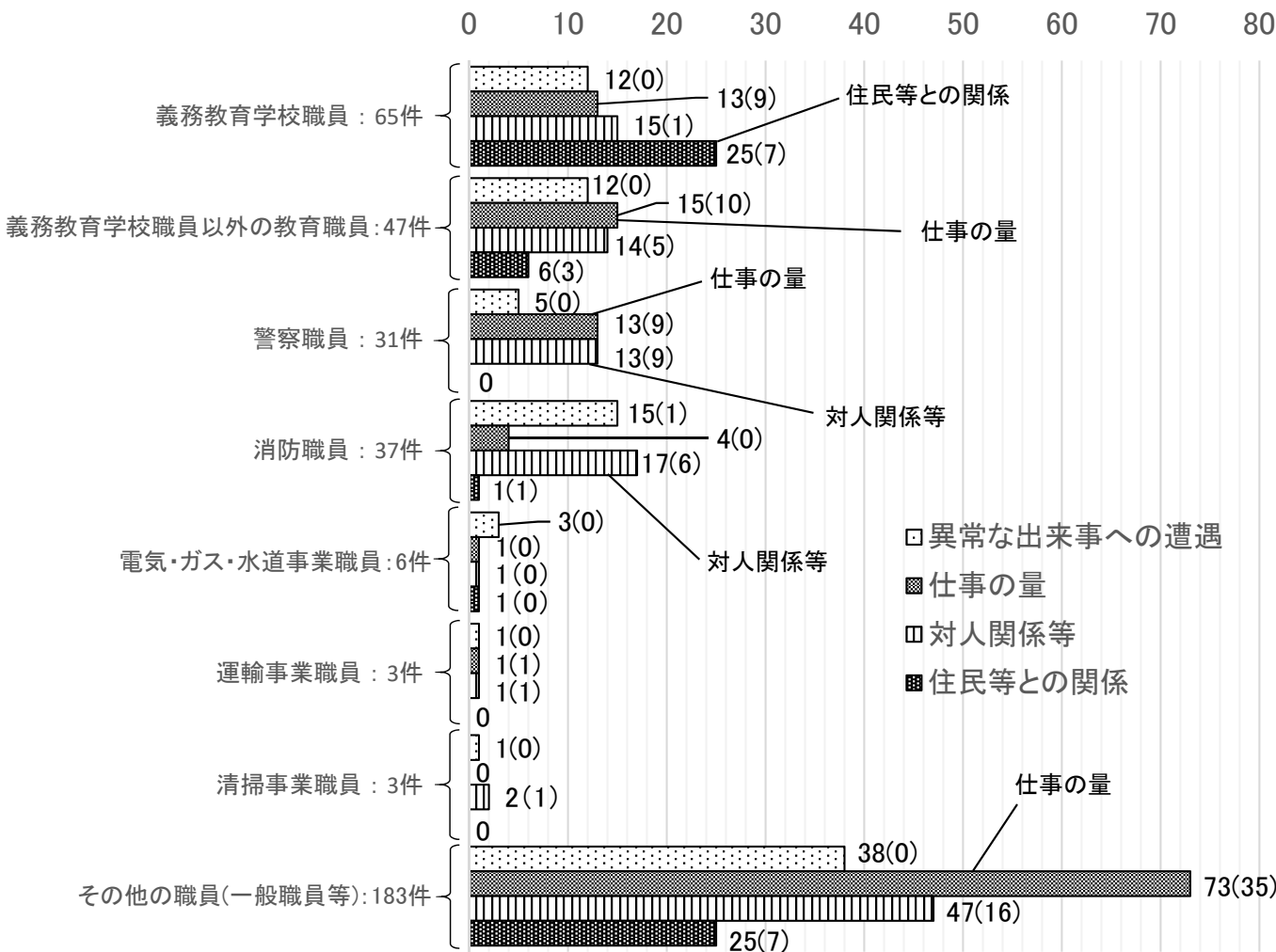
男女別でみると、男性359件のうち、『仕事の量』100件（27.9%）、『対人関係等』71件（19.8%）、女性170件のうち、『異常な出来事への遭遇』45件（26.5%）、『対人関係等』39件（22.9%）が多くなっている。

(自殺事案)

自殺事案は211件で、主な内訳は、『仕事の量』64件（30.3%）、『対人関係等』39件（18.5%）、『業務執行体制』32件（15.2%）となっている。

男女別でみると、男性は『仕事の量』が多く60件、女性は『住民等との関係』が多く5件となっている。

図2-3 職員区分別・業務負荷（出来事）別の事案数



業務負荷（出来事）別の事案数375件について、職員区分別にクロス集計すると、それぞれ最も多いのは、

- ・ 義務教育学校職員
→ 『住民等との関係』 65件中25件（38.5%）
- ・ 義務教育学校職員以外の教育職員
→ 『仕事の量』 47件中15件（31.9%）
- ・ 警察職員
→ 『仕事の量』、『対人関係等』 31件中各13件（41.9%）
- ・ 消防職員
→ 『対人関係等』 37件中17件（45.9%）
- ・ その他の職員（一般職員等）
→ 『仕事の量』 183件中73件（39.9%）

であった。

(注)1. 精神疾患は346件であるが、1つの事案に対し、複数の業務負荷(出来事)に該当する場合はそれぞれを1件としてカウントしているため、総数(375件)とは一致しない。
 2. 業務負荷が認められる出来事のうち、主な4項目のみを抽出して記載している。
 3. ()内は、うち自殺事案の数。